



お茶の水女子大学 グローバルCOEプログラム 格差センシティブな人間発達科学の創成 ニュースレター 第6号

- ② 面 人材育成プログラム
- ③ 面 基礎問題プロジェクト／特任教員の紹介
- ④ 面 研究成果の発信／開催予定

教育プログラム委員会委員長挨拶

教育プログラム委員会は、大学院生による研究を効果的に支援することを役割としています。お茶の水女子大学グローバルCOEは若手研究者の育成に重点を置き、研究面の支援として公募研究・協働研究補助・研究発表支援、生活面の支援としてリサーチ・アシスタントの採用を行っています(各プログラムの詳細は2面参照)。支援ができるだけ多くの院生に行き渡るようにしたいと思いますが、同時に、特に伸びる可能性のある研究に重点的に支援し

て成果を挙げてもらふ必要もあり、結果的には競争的な配分になっています。研究分野(テーマ)には単発的・具体的な成果が出やすいものとそうでないものがあり、多様な領域の研究の進捗状況を比較すること自体も難しいため、選考には苦勞します。院生の皆さんには支援を受けるために目先の小さな成果を出すことに夢中にならず、自分のペースでスケールの大きな研究を目指してもらいたいと思っています。



教育プログラム委員会委員長
米田 俊彦

公開セミナー

第3回発達追跡研究のための多変量解析セミナー「縦断データの解析：潜在クラス分析」

発達追跡研究のための多変量解析セミナーシリーズはこれまでに「回帰分析(第1回)」「潜在成長曲線分析(第2回)」をテーマとしたセミナーを行ってきましたが、2010年5月13日(木)に行われた第3回ではこれまでの内容を踏まえ、新たに「潜在クラス分析」を取り上げました。第一部では室橋弘人特任アソシエイトフェローによる潜在クラス分析の概要と実際の解析方法の説明が行われ、第二部では松本聡子

特任リサーチフェローが潜在クラス分析の実例を紹介し、この解析手法について理論と実践の両方の視点から解説を行いました。様々な領域から多くの参加者があり、自身の研究活動に有益な情報を収集することができたなどの感想が寄せられました。参加者は約30名でした。



人材育成プログラム

格差にセンシティブ（敏感）な人間発達科学の創成と、その担い手となる研究者の養成を目的として形成されたお茶の水女子大学グローバル COE は、教育プログラム委員会の主管のもと、研究者養成の基礎となる基盤教育プログラム（公募研究、RA、研究発表支援）と、本拠点がめざすソーシャル・ジャスティス（社会的公正）にセンシティブな新しい研究者養成に向けての革新教育プログラム（協働研究補助）を実施しています。

① 公募研究

拠点プログラムの遂行に必要な、すぐれた研究計画を有する若手研究者（本学内外の大学院博士後期課程在籍者または修了者）を支援するため、研究費を補助する「公募研究」プログラム（単年度ごとに公募・採択）を実施しています。2010年度は48件（社会学18件、心理学19件、教育学11件）の応募があり、厳正な審査の結果、23件の研究（1件あたり助成額35～45万円、総額950万円）が採択されました（リスト参照）。公募研究採択者は年度末に研究実績報告書を提出し、公募研究報告会で口頭発表を行うほか、グローバルCOE事業の一環として発行される『公募研究成果論文集』または学会誌に研究成果を投稿することが義務付けられています。

なお、2009年度公募研究採択者（全19名）の研究成果は2010年4月12日（月）に開催された公募研究報告会（写真参照）で発表され、7月末に『2009年度公募研究成果論文集（Proceedings 12）』が刊行されました。詳しい内容は本プログラムのHP（<http://ocha-gaps-gcoe.com/>）をご覧ください。



② リサーチ・アシスタント（RA）

RAは指導教員の指導のもとで研究活動に従事することを主たる業務とする非常勤職員で、グローバルCOEの開催するシンポジウムやセミナーなどの研究集会に出席すること、研究補助者としてグローバルCOEにかかわる事業に参加することも業務とします。人間発達科学専攻博士後期課程在籍者に先端的研究に参加する機会を保障しつつ、自らの研究に集中できる環境を整えるために、週2日勤務で月額10万円の給与支給を基本条件として雇用します。博士後期課程1年生は申請どおりに採用し、2年次以上の者については在籍期間の長さによさしい業績があるかどうかの審査を行った結果、2010年度は応募者51名中36名（D1：23名、

D2：8名、D3：3名、D4以上：2名）を採用しました。

③ 研究発表支援

学会発表に要する旅費（交通費・宿泊費）を補助することにより、人間発達科学専攻博士後期課程在学者の研究を進展させるとともに、グローバルCOE拠点を形成・充実させることを目的とするものです。国内旅費の支給額上限は5万円、海外10万円で、2010年度は21件（うち5件は海外での発表）が採択されました（支給総額115万円）。

④ 協働研究補助

人間発達科学専攻博士後期課程在学者を対象に、研究世界と実践世界（学校や福祉、子育て、途上国支援等の現場）との協働研究経験（参与観察、補償教育実践、学習指導などを含む）にかかる費用（旅費、撮影・聞き取り記録作成など）を、国内10万円、海外20万円を上限に助成します。2010年度は、3件（うち2件は公募研究）が採択されました（助成総額30万円）。

2010年度グローバルCOE 公募研究採択者一覧

名前	研究課題	名前	研究課題
寺村絵里子	日本における女性労働者の退職慣行に関する研究：職種・業種を考慮した推計	今野直子	乳児院における情緒発達とその援助：発達臨床心理学的視点から
温土頼	中国の女性農民工の労働条件における「二重の格差」：中国東北部における縫製業を中心に	吉野さやか	子どもの想起の発達：共同想起は子どもの記憶を変容させるのか
安藤藍	里親経験の語りにもとづく里親制度の理論的・実践的課題：実親とのかわり、措置終了後の子どもとのかかわりの観点から	黒川祐貴子	保育現場における、関わりの難しい保護者への対応を行う保育者支援：関わりのプロセスと保育者の情緒的体験からの検討
岩下好美	職業コミットメントが親役割に及ぼす影響	吉武尚美	大学生の生活満足度の時間的変化とその関連要因についての縦断的検討
中川まり	男性の育児・家事参加の規定要因としての夫と妻の性別役割分業意識の相互作用と相対的資源差について：量的（二次データ）研究と質的研究によるアプローチ	井上直美	トラウマ焦点化心理療法の治療効果：個人差に配慮したトラウマ・ケアの確立に向けて
劉楠	現代中国における父親の養育行動と高校生の自尊感情：都市部と農村部の地域差から	大島聖美	青年期後半の子どもへの両親の関わりとその背景：インタビュー調査結果から
落合絵美	学歴とケア労働が女性労働者の賃金に及ぼす影響：シンガポール人女性労働者を事例に	池田琴恵	GTOシステムを活用した学校評価実施支援の有効性の検討：学校評価実施のための技術支援的介入を通じた学校組織開発に向けて
吉岡なみ子	ケア職員の「専門性」についての認識と施設ケア秩序：高齢者介護施設におけるケアの担い手へのインタビュー調査から	松島のリ子	戦後日本における幼稚園・保育所の普及と地域差の実態：東京都を事例として
川上裕子	戦前・戦中における産業組合を中心とした農村保健活動：島根県下の産業組合による国民健康保険代行における保健婦活動を事例として	吉見江利	地域住民が担う社会教育指導員の専門性を培う力量形成：学び合うコミュニティにおける実践の省察という視点から
麻生奈央子	女性の「ロマンティック幻想」とシンデレラの「ガラスの靴効果」：青年期女子と成人期女性を対象に、IATを使用して	中西啓喜（青学院）	ジェンダー・トラックの再考：私立女子校のカリキュラム再編の検討から
齊藤あゆみ	学童期の子ども達の発達を支える援助資源の心理臨床的活用：就学前後の連携に着目して	山崎奈々絵	創成期の教員養成系大学・学部における一般教養の位置づけに関する歴史的研究
		高友哈	英語教育必修化に伴う民族教育の変容に関する研究：中国内モンゴル自治区民族学校での授業観察及びインタビュー調査を中心に

基礎問題プロジェクト

お茶の水女子大学グローバル COE では、「国際的格差」「教育・社会的格差」「養育環境格差」の3つの研究領域間の相互理解と連携を深めるため、「基礎問題プロジェクト」研究会を実施しています。2010 年度前期には、第 6 回研究会が行われました。

第 6 回研究会

「言語発達の研究手法論再考」

日時：2010 年 6 月 16 日（水）

14:00 ~ 17:00

会場：お茶の水女子大学本館 103 号室

参加者：45 名

基礎問題プロジェクト第 6 回研究会では、言語発達の分野における国際的な格差の課題を軸に、子どもの言語獲得の実証的な研究方法と格差問題について検討する公開セミナーを行いました。まず、本学の内田伸子教授より、日中比較研究の事例を通じて言語獲得についての実証的な研究法（臨床面接法、教授実験パラダイム、パペットパラダイムなど）に関する報告が行われました。次に、李美静特任リサーチフェローから日本および台湾のそれぞれの日中バイリンガルの研究事例に基づく第二言語習得の研究方法に関する発表がなされ、多言語・多文化社会の台湾

における国際結婚家庭の子どもの育成や教育格差における現状と課題が示されました。基礎から応用に至る幅広い内容の報告を受けて、学内外の参加者による活発な議論が行われ、充実した研究会となりました。



特任教員の紹介

本拠点では、事業推進担当者とともに、広く国内外から公募した若手教員が研究推進の中心的な役割を果たしています。特任准教授、特任講師、特任助教の他、研究と業務に従事する特任リサーチフェロー、特任アソシエイトフェローがいます。今号では 5 名のアソシエイトフェローをご紹介します。



特任アソシエイトフェロー

猪股 富美子

専門領域は広告コミュニケーション、メディアリテラシーです。青少年を取り巻くメディアの有害情報対

策や地域・家庭におけるメディアリテラシー教育の推進等、主に社会教育現場を中心に活動しています。今年度は特に、携帯コンテンツの審査・運用監視機関の委員として青少年に対するモバイルマーケティングや広告の諸問題について検討するとともに、ネットいじめの現状と課題について国内外の実践事例を収集・検証する予定です。GCOE では事務局に所属し、各領域・委員会活動のサポートやプログラム運営のマネジメントを補佐しています。



特任アソシエイトフェロー

河田 敦子

専門領域は教育史です。近代日本における権力構造と教育制度との関係を研究しています。人間がどのような

権力構造の中で生き、権力が形成した格差に對しどのように対処し生き抜くかに関心があります。2010 年度には、明治初期に山梨県女子教育に尽力した内藤ます子についての研究成果を 3 月に刊行し、山梨有朋（内務卿・内務大臣）が 1880 年代に地方行政を通して実施した教育政策を解明した博士論文も風間書房より刊行される予定です。GCOE では教育・社会的格差領域に所属、広報活動と英文モノグラフの編集を担当しています。



特任アソシエイトフェロー

原 葉子

専門領域は歴史社会学です。女性の老いが社会の中でどのように位置づけられてきたかということに関心をもち、主に 20 世紀初頭のドイツをフィールドに、高齢者やエイジングに関する社会意識や規範のありようをジェンダー論的視点からとらえる研究を行っています。現在は、ドイツの「社会国家」萌芽期における女性の年金問題と、「更年期」をめぐる医療言説の分析という 2 つのテーマに取り組んでいます。GCOE では教育・社会的格差領域に所属、領域融合的な「基礎問題プロジェクト」の事務局、および全体の広報活動を担当しています。



特任アソシエイトフェロー

室橋 弘人

専門領域は計量心理学、多変量解析、テスト理論です。直接観察することのできない人間の心を、心理テスト

などの調査データを介して目に見える形でとらえるための方法論に関する研究、および実際に得られたデータの分析を手がけています。GCOE では養育環境格差領域に所属しており、社会における格差を形成するメカニズムが子どもの発達過程においてどのように作用しているのかというテーマについて、子どもを取りまく家族や環境といった外部要因と子ども自身の持つ心理学的な個人要因との関連という側面から研究を行っています。



特任アソシエイトフェロー

李 紅衛

専門領域は教育史、日中文化交流史です。戦前日本の対華文化活動や教育事業について、主に清末から民国

期の近代中国における民間レベルでの文化交流をめぐって、とりわけ日本の民間団体や個人による中国人を対象とした教育事業・文化活動を研究しています。昨年は博士論文をもとに、著書『清水安三と北京崇貞学園』が不二出版より刊行されました。本書は、階層・文化・地域間の格差は正を考える際に示唆を与えるものとなればと願っています。GCOE では、教育・社会的格差領域に所属し、公募研究成果論文集の編集委員を担当しています。

研究成果の発信

●お茶の水女子大学グローバル COE プログラム「格差センシティブな人間発達科学の創成」『幼児のリテラシー習得に及ぼす社会文化的な要因の影響：日韓中越蒙国際比較調査』国際的格差班プロジェクト報告書、内田伸子（研究代表者）、2009 年 8 月、199 ページ。

●お茶の水女子大学グローバル COE プログラム「格差センシティブな人間発達科学の創成」『幼児のリテラシー習得に及ぼす社会文化的な要因の影響：日本（東京）・韓国（ソウル）・中国（上海）比較データブック』リテラシー調査プロジェクト班、2010 年 3 月、62 ページ。

お茶の水女子大学グローバル COE 国際的格差領域はベネッセコーポレーションと共同で、日本・韓国・中国・ベトナム・モンゴルの国際比較調査に取り組んでいます。内田伸子教授を代表とする調査班は各国の 3～5 歳児に面談調査を行い、読み書き能力やアルファベットの読み能力、語彙力について調べるとともに、対

象児の保護者に対して子ども観やしつけスタイル、家庭の収入、早期教育への取り組みの実態と教育への投資額について、また保育者に対して保育形態、保育環境の設定、子どもへの関わり方などについて、それぞれアンケート調査を実施しました。研究成果は報告書として GCOE から刊行された他、日本や韓国、モンゴル等各国の主要メディアで大きく取り上げられました。

●お茶の水女子大学グローバル COE プログラム「格差センシティブな人間発達科学の創成」『青少年期から成人期への移行についての追跡的研究 JELS 第 13 集 細分析論文集(3)』、耳塚寛明（研究代表者）、2010 年 3 月、62 ページ。

お茶の水女子大学グローバル COE 教育・社会的格差領域が取り組む JELS (Japan Education Longitudinal Study) は、主に小中高生およびその保護者を対象に調査を行っています。今回は 2004 年と 2007 年

に東北地方で収集したパネルデータを分析し、「現代のトラッキングと生徒文化」「現代ノンエリート高校生の進路選択」「パフォーマンス・アセスメントを用いた教師の力量向上の試み」など 7 つの章に分け、報告書をまとめました。

●お茶の水女子大学グローバル COE プログラム「格差センシティブな人間発達科学の創成」『PROCEEDINGS 12 Grant-In-Aid Research Awards (2009 年度公募研究成果論文集)』、2010 年 7 月、116 ページ。（2 面「人材育成プログラム」参照）



2010 年度開催予定の情報

2010 年度後期には、以下のプログラムの開催を予定しています。詳しい内容はお茶の水女子大学グローバル COE の HP (<http://ocha-gaps-gcoe.com/>) をご覧ください。皆様のご来場をお待ちしております。

●第 4 回国際シンポジウム「子どもの発達と養育環境：ペアレンティングと子どもの QOL」

お茶の水女子大学グローバル COE では養育環境格差領域と国際的格差領域の共同で、アジアにおける子どもの QOL (Quality of Life) の比較研究が行われています。今年度の国際シンポジウムでは、アメリカ CNA パブリックリサーチ研究所で母親の養育に対する介入と子どもの発達との関連についての研究を展開されている S・フリードマン博士を講師にお招きするとともに、アジア 4 カ国における親子の QOL 調査の中間報告を行います。

【日時】2010 年 10 月 5 日（火）16:00～19:00

【会場】お茶の水女子大学共通講義棟 2 号館 102 室

【使用言語】英語・日本語（同時通訳）

第 I 部 シンポジウム「アジアの子どもの養育環境と QOL」

・「親子の QOL の縦断的变化とその関連要因」

松本聡子（お茶の水女子大学）

・「親子の QOL 調査：アジア各国からの基礎報告」

徐凌中（中国：山東大学）

ニチャラ・ルアングラガノン（タイ：マヒドン大学）

ツアン・ディエップ・トラン（ベトナム：ホーチミン医科大学）

安治陽子（お茶の水女子大学）

第 II 部 講演「母親の養育への介入研究」

サラ・フリードマン（CNA パブリックリサーチ研究所）

●講演会「生涯学習における能力（コンピテンシー）と評価」

韓国からの講師をお招きして、生涯学習社会に求められる社会人のコンピテンシーや評価のあり方についての講演会を開催します。

【日時】2010 年 9 月 21 日（火）10:00～12:30

【会場】お茶の水女子大学 文教育学部 1 号館第 1 会議室

【講師】イピョンジュン（釜山国立大学教授）

パク ジェオン（釜山国立大学 K21 研究員）

【使用言語】韓国語（日本語への通訳あり）

●2010 年度第 1 回 RA 研究報告会

2010 年度に採用された RA36 名のうち 23 名が報告者／コメンテーターとして登壇する研究報告会を開催します。

【日時】2010 年 9 月 27 日（月）12:30～16:30

【会場】お茶の水女子大学本館 103 号室

●講演会 “Globalization: New Challenge and Opportunities for Adult Education”

日本でも著作が広く紹介されている S・メリアム教授の来日に合わせ、国立教育政策研究所との共催による講演会を開催します。

【日時】2010 年 10 月 16 日（土）10:00～12:30

【会場】お茶の水女子大学 文教育学部 1 号館第 1 会議室

【講師】シャラン・B・メリアム（ジョージア大学教授）

【使用言語】英語（日本語への通訳あり）

編集後記

今回のニュースレター 6 号では今年度上半期で実施した統計セミナーおよび、本プログラムの 3 つの研究領域間の相互理解と連携を深めるための「基礎問題プロジェクト」研究会のほか、教育プログラムの若手研究者支援と広く国内外から公募した若手教員の紹介を中心に掲載しました。

編集者 広報委員会委員 李 美靜

発行 お茶の水女子大学 グローバル COE プログラム
「格差センシティブな人間発達科学の創成」
〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1 文教 1 号館 103
グローバル COE 事務局 Tel/Fax : 03-5978-5247
E-mail : jimu-gcoe@cc.ocha.ac.jp
URL : <http://ocha-gaps-gcoe.com/>